

---

# 視線

彩月空

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

視線

### 【コード】

N9055F

### 【作者名】

彩月空

### 【あらすじ】

視線に込められた力。それはとても強く、怖ろしい。そんな些細な話。

嫌な汗が噴出した。

異様な圧迫感。激しく波打つ鼓動。地の底から這い出てくる緊張感。

その理由を、私はすぐに知る。

視線だ。視線がある。

誰かがじっと私を見つめている。

いつたい誰だ。

私は首を動かさず、視線の主を捜す。

しかし、それらしき人は見つからない。

見つからないが、視線を感じる。

最も不気味な感覚だ。

視線はいつも付きまとう。

喫茶店でコーヒーを飲んでいても、図書館でめぼしい本を物色していても、公園で散歩をしていても……。

どこかで私を見つめている。

そして、とうとう家においても視線を感じるようになった。

ここまでくると、これはもはや恐怖の対象だ。

私は捜す。

必死に捜す。

視線の主を、私は探す。

あれだ。

見つけた。

あの女だ。

帽子を深く被っているが、その視線は私に向かう。

どうしたことが。

私に何か恨みでもあるのだろうか。

それほどまでに強い力が私に迫る。

とにかく私は逃げ出した。

その視線の届かない場所に。

しかし、逃げても逃げても視線は消えない。

どこまでもどこまでも、私の身体に突き刺さる。

鋭利な刃物のような視線が私に突き刺さる。

あ、と思ったときには遅かった。

私はどうやら足を踏み外したらしい。  
階段を転がり落ちながら私は見た。

あの女の瞳を。

感情の見えない、どこまでも冷たい瞳を。

そして、彼女が笑った。

ああ。私は殺されたのだ。

彼女の視線に。

~~~~~

さっと身を隠した。

異様な圧迫感。激しく波打つ鼓動。地の底から這い出てくる緊張感。  
その理由を、あたしはすでに知っている。

彼だ。彼が居る。

あたしはじつと彼を見つめている。

彼は首を動かし、誰かを捜す。

熱っぽく見つめていることに気づかれたのかと思い、あたしは慌てて身を隠した。

彼からあたしは見えないが、あたしからは彼が見える。

最も素敵な光景だ。

あたしはいつも付きまとう。

喫茶店でコーヒーを飲んでいる彼。

図書館でめぼしい本を物色している彼。

公園で散歩をしている彼……。

どこでも彼を見つめている。

そして、とうとう家まで追いかけるようになった。

ここまでくると、これはもはやストーカーだ。

でもあたしはそれに気づかない。

自分がストーカーだなんて思わない。

これはただ、純粹な愛の形に過ぎない。

そして、見つめるだけでは物足りなくなった。

だから、わざと彼に見つかった。  
姿を見せた。

お気に入りの帽子を被って、あたしは彼に顔を見せに行く。

それなのに、どうしたことだろう。

彼は何かおぞましいものを見たかのように顔をゆがめた。  
あたしはその理由が知りたくて、彼をじっと見つめる。

すると、突然彼が駆け出した。

これは、まずい。  
見失ってはいけない。

せっかく決心したのだ。

あたしは今日、彼に会う。  
だから、どこまでもどこまでも、彼を追い続ける。

細い道を縫うようにかけ、彼は段差の急な階段に足を踏み入れた。

あ、と思ったときには遅かった。  
彼はどうやら足を踏み外したらしい。  
階段を転がり落ちる彼を見た。

ようやくあたしたちの視線が交わった。

彼の瞳が、あたしの瞳にぶつかる。

そして、あたしは笑った。

彼の脳裏に永遠に焼きつくように、あたしは精一杯の笑顔を向けた。

あたしは愛を伝えたのだ。

この視線で彼を射止めたのだ。

~~~~~



上から下まで転がり落ちた彼は、ぴくりとも動かなかった。

あたしは彼に寄り添い、そして　。

背後からの視線に身体を震わせた。

誰だろう。

あたしは振り向く。

そこに姿はない。

けれど、確かに視線を感じる。

嫌な汗が噴出した。

異様な圧迫感。激しく波打つ鼓動。地の底から這い出てくる緊張感。

視線があたしに突き刺さる。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9055f/>

---

視線

2010年12月23日14時21分発行